

普及活動現地情報

「農業現場では、今」

令和3年3月号



【日高振興局】3/11 重点プロジェクト【新病害虫や梅干し生産への特化のリスクに強い梅産地づくり】
～「露茜」の導入推進・生産安定技術の実証～

和歌山県農林水産部経営支援課
(農業革新支援センター)

はじめに

普及活動現地情報は、普及指導員等が行う農業の技術普及、担い手育成、調査研究、地域づくり等の多岐に渡る現場普及活動や、運営支援を行っている関係団体の活動、産地の動向等、その時々々の旬な現場の情報をとりまとめたものです。

それぞれの地域毎の実情に応じて、特徴ある普及活動を展開していますので、是非、御一読頂き、本情報を通じて、普及活動に対する御理解を深めて頂くと共に、関係者の皆様にとって、今後の参考になれば幸いです。

また、本情報については、カラー版（PDF ファイル）を和歌山県ホームページ内（農林水産部経営支援課：アドレスは下記を御参照下さい。）に掲載しており、過去の情報も閲覧出来ますので、併せて御活用下さい。

和歌山県農林水産部経営支援課ホームページ 普及現地情報アドレス

<http://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/070900/hukyu/>

検索サイトより、以下のキーワードで御検索下さい。



< 目 次 >

	頁数
I 海草振興局	1 - 3
1. 重点プロジェクト【次世代につなぐ下津みかん産地への取り組み】 ～海南・下津農業の将来を考えるワーキングチーム会議を開催～ ～魅力ある下津みかん産地ガイド&産地 PR チラシを作成～	
2. 普及活動実績報告会を開催	
3. 種ショウガ生産者栽培講習会および情報交換会を開催	
4. 和海地方農業士会女性部会研修会を開催	
5. 和海地方スマート農業推進協議会研修会を開催	
II 那賀振興局	4
1. アグリビギナー研修会（果樹）を開催！	
III 伊都振興局	5
1. かつらぎ町有機栽培実践グループオンライン研修会を開催	
IV 有田振興局	6 - 7
1. 令和2年度有田地方農業士協議会女性部会意見交換会を開催	
2. 有田管内の2つの日本農業遺産（「みかん栽培の礎を築いた有田みかんシステム」、「聖地 高野山と有田川上流域を結ぶ持続的農林業システム」）の認定証授与式を開催	
3. 辛味果実の発生しないシシトウガラシ「ししわかまる」の生産拡大	
V 日高振興局	8 - 9
1. 重点プロジェクト 【新病虫害や梅干し生産への特化のリスクに強い梅産地づくり】 ～「露茜」の導入推進・生産安定技術の実証～	
2. 印南町4Hクラブが清流小学校で卒業式用のフラワーアレンジメントを指導	
3. 日高地方生活研究グループ連協が「日高の味を楽しむレシピ」を発行	

Ⅵ 西牟婁振興局	10-12
1. 重点プロジェクト【気象条件等に対応した果樹産地の振興】 ～ウメ「橙高」栽培実証園の施肥管理を行いました～	
2. 重点プロジェクト【気象条件等に対応した果樹産地の振興】 ～ミカン「YN26」のせん定研修会を行いました～	
3. スターチス栽培における種苗費低減技術の現地実証試験結果	
Ⅶ 東牟婁振興局	13
1. 重点プロジェクト【新規就農者の育成を核としたイチゴの産地育成】 ～イチゴハダニ類の天敵防除実証圃調査結果～	
Ⅷ 経営支援課（農業革新支援センター）	14
1. 普及指導計画実績発表会を開催	

I 海草振興局

1. 重点プロジェクト【次世代につなぐ下津みかん産地への取り組み】

～海南・下津農業の将来を考えるワーキングチーム会議を開催～

3月5日、海南・下津地域の農業を将来に継承していくため、平成30年度に設置した「海南・下津農業の将来を考えるワーキングチーム」の令和2年度第2回会議がJAながみねしもつ営農生活センターで開催された。会議には、農業者代表として下津町農業士会（会長：榎本友紀氏）、下津町農業研究会青年同志会（会長：杉本博基氏）、JAながみね柑橘部会（会長：岡畑浩二氏）と下津町内援農主催者大谷幸司氏及び海南市産業振興課、JAながみね、農業水産振興課の担当職員が出席した。今回は、今年度の下津地区における労働力の確保実績や課題について大谷幸司氏及びJAながみね担当者から説明があり、令和3年度以降も労働力が安定して確保できるよう引き続き関係機関が連携して取り組むことを申し合わせた。

また、当課から標記重点プロジェクトの今年度の取り組み内容と3年間の成果等を説明するとともに、令和3年度も引き続き下津地区で取り組む重点プロジェクトの内容について説明し、普及活動への協力を呼びかけた。

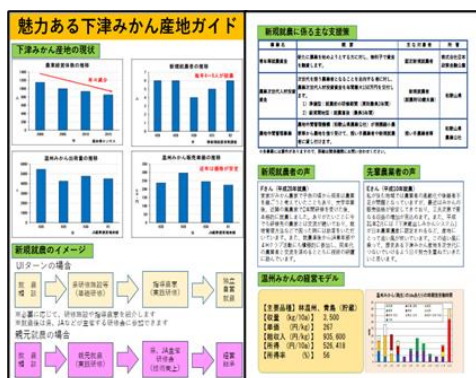
今後もワーキングチームを定期的開催し、農業現場の課題や解決策について活発な意見交換を行いながら、海南・下津地域農業の維持発展につながる取組を地域に提案していく。



ワーキングチーム会議

～魅力ある下津みかん産地ガイド&産地 PR チラシを作成～

農業水産振興課では、下津みかん産地の新規就農者確保と定着につなげるため、関係機関や農業者代表と連携して、産地の現状や魅力、先輩農業者の声、新規就農時の支援策、経営モデルなどをまとめた「魅力ある下津みかん産地ガイド」と産地の概要や主な栽培品目をまとめた「産地 PR チラシ」を作成した。両方ともA4版両面刷りで、令和3年度以降、県内外の就農フェアや新規就農希望者の相談対応時に活用する。



魅力ある下津みかん産地ガイド



産地 PR チラシ

2. 普及活動実績報告会を開催

3月12日、海南 nobinos（ノビノス）において、令和2年度普及活動実績報告会を行い、和歌地方総合農政推進協議会（事務局：農業水産振興課）の運営委員と普及指導協力委員ら関係者21名が出席した。

当日は、当課職員から重点プロジェクト1課題、一般課題2課題、その他普及活動の発表を行った。その後、各委員らと地域の課題や今後の取り組み等について意見交換会を行った。委員から「県内で種ショウガ生産の普及と同時に、援農体制も進めてはどうか」、「新規就農にあたって技術的な面でもっとサポートできないか」などの意見や提案があり、活発な意見交換が行われた。

当課では、来年度も関係機関と連携を取りながら、普及活動に取り組んでいく。



報告会

3. 種ショウガ生産者栽培講習会および情報交換会を開催

種ショウガ生産者とJAわかやま、JAグループ和歌山農業振興センター、和歌山県を構成員とする和歌山市種生姜生産促進協議会は3月1日、JAわかやま中央営農センターにおいて種ショウガの栽培講習会を開催した。

和歌山市の新ショウガ栽培では、種ショウガのほぼ全量を県外産地から購入している。このため、種ショウガが不作の年では需要が逼迫し、種ショウガの確保が難しくなるとともに、価格が高騰して経営を圧迫する。そのため、協議会では和歌山市内での種ショウガの一部自給を目指している。

講習会では、衛藤普及指導員から今年度の種ショウガ生育経過や収穫調査の結果を説明し、JAわかやまの田中営農指導員から次作での栽培管理のポイントを確認した。その後の情報交換会では、生産者の栽培管理や土壌消毒、防除対策などについて話し合いが行われた。令和2年度の種ショウガ生産者は8名であったが、次年度は新たに2名が加わり生産拡大を図る。

今後は、和歌山市種生姜生産促進協議会のメンバーで定期的に巡回指導や研修会を行い、良質な種ショウガ生産の拡大を目指していく。



栽培講習会

4. 和海地方農業士会女性部会研修会を開催

3月26日、和海地方農業士会女性部会（部会長：森本敬子氏）研修会を開催し、部会員8名が参加した。研修会では、農業試験場にてイチゴ新品種育種ハウスの見学、和歌山市吉礼の温州ミカン園にて温州ミカンの剪定講習を行った。

イチゴ新品種育種ハウスの見学では、田中主査研究員から育種について説明を受けた後、試験場内で選抜試験中である系統の試食を行った。その後、和歌山市吉礼の温州ミカン園に移動し、剪定講習を行った。講師に元JAながみね職員である坂田寛樹氏を迎え、摘果を減らす剪定方法や、剪定時の注意点等について説明を受けた。

参加者からは、「イチゴの品種間による味の違いがはっきり分かった」、「この剪定なら分かりやすく、作業の軽減もできそう」といった声があった。

当課では、女性農業者のスキル向上を図るため、今後も女性部会活動を支援していく。



イチゴ育種ハウスの見学



温州ミカンの剪定講習

5. 和海地方スマート農業推進協議会研修会を開催

農業用ドローン保有生産者、管内市町、JA、海草振興局を構成員とする和海地方スマート農業推進協議会（会長：東尾勝司氏（JAながみね）、令和2年6月設立）は3月10日、JAわかやま中央営農センターにおいて研修会を開催し、農業者および関係者20名が出席した。

研修会は、滋賀県のレーク大津農業協同組合の田中章吾氏から「ドローンを活用した農業現場の取り組み」について、続いて株式会社東海近畿クボタの森友寛氏から「クボタ・スマート農業の現状と今後の展開」について、最後に、果樹試験場の熊本主査研究員から「果樹のドローンによる農薬散布」について、それぞれ講演が行われた。

講演後には参加者を交えて、ドローンを活用した除草や散布方法、使用する薬剤等について活発な意見交換会が行われた。

当課では、来年度もスマート農機導入に向けて、研修会を定期的で開催していく。



研修会

Ⅱ 那賀振興局

1. アグリビギナー研修会（果樹）を開催！

3月18日、JA紀の里岩出支所及び現地圃場（岩出市川尻）にて就農5年以内の新規就農者を対象としたアグリビギナー研修会（果樹）を開催し、4名が出席した。

まず、北原普及指導員から温州ミカン、モモ、カキ、キウイフルーツ、イチジクを新規導入した際のメリットや注意点、植え付けや苗木等にかかる必要経費について説明を行った。

続いて、JA紀の里の北尾営農指導員からイチジク栽培の基礎について講義があった後、栽培園を見学した。

参加者からは、圃場における土づくりや、樹勢維持のため畝幅を広くとっている栽培方法などが大変参考になったとの声が聞かれた。

農業水産振興課では、今後も同様の研修会を通じ、新規就農者の支援を行っていく。



研修会

Ⅲ 伊都振興局

1. かつらぎ町有機栽培実践グループオンライン研修会を開催

3月22日、かつらぎ町有機栽培実践グループ（代表：木村義孝氏）では生産者の知識や技術の向上を目的に研修会を開催し、19名が参加した。

今回は、グループで初めてのオンライン形式での研修会で、講師は株式会社バルーンの小堀夏佳氏が務め、世界や日本のオーガニック市場の状況や小堀氏が愛の野菜伝道士として全国各地で出会った野菜の事例紹介があった。

農業水産振興課では、引き続きグループ活動を支援していく。



オンライン研修会

IV 有田振興局

1. 令和2年度有田地方農業士協議会女性部会意見交換会を開催

3月10日、有田振興局において、有田地方農業士協議会女性部会（藤岡良子部会長：部会員11名）意見交換会を開催し、8名が出席した。

今年度は、新型コロナウイルスの影響で研修会を行う機会がなく初めての開催となった。意見交換会では有田みかんをはじめ地元農産物の新しいPR方法や、有田農業女子プロジェクトに期待することや思いについて話し合った。その後、女性部会員が自ら使用しているパワーアシストスーツの紹介があった。

農業水産振興課では、他地域や若手の女性農業者との交流を深められるよう、引き続き、女性部会の活動支援を行っていく。



意見交換会とパワーアシストスーツの紹介

2. 有田管内の2つの日本農業遺産（「みかん栽培の礎を築いた有田みかんシステム」、「聖地 高野山と有田川上流域を結ぶ持続的農林業システム」）の認定証授与式が開催

3月17日、金屋文化保健センターにおいて日本農業遺産の認定証授与式が開催された。本来は東京で認定式を開催する予定であったが、新型コロナウイルスの感染拡大のため本年度はリモートでのWeb開催となった。

2つの農業遺産認定を進める協議会は、世界農業遺産及び日本農業遺産の登録に向けて昨年7月から書類審査、2次審査での現地調査、プレゼンテーション審査へと対応を進めてきた。これらの努力もあり、2月19日に農林水産省より日本農業遺産認定の発表があった。

授与式当日は、各協議会役員が出席し、野上農林水産大臣からの祝辞の後、記念撮影、武内専門家会議委員長の記念講演があった。

この2つの日本農業遺産認定により、有田振興局管内は全域が日本農業遺産に認定されることとなり、今後は更なる地元理解の促進と、認定を契機として地域の活性化、世界農業遺

産へのステップアップを視野に活動を進める。



高野山・有田川流域世界農業遺産推進協議会



有田みかん地域農業遺産推進協議会

3. 辛味果実の発生しないシシトウガラシ「ししわかまる」の生産拡大

J Aありだししとう部門では辛味果実の発生しない「ししわかまる」を昨年度、露地栽培で1,100株を部会員全員で栽培、関西市場へ出荷した結果、市場の反応も良く、従来の品種「葵」よりも高単価で販売された。

コロナ禍で促成栽培のししとう価格が低迷していること、「ししわかまる」の市場評価が高かったこともあって生産者の関心が高く、全ての作型（3月定植の無加温ハウス栽培、4月定植の露地栽培、9～10月定植の加温ハウス栽培）で生産し、周年出荷する計画となった。

既に無加温ハウス栽培で360株を定植しており、露地栽培では1,300株を定植する予定。

育苗はJAわかやまグリーンステーションに委託しているが、JAわかやまでの育苗は初めてで、苗の生育が予定よりも速く、定植時期を早める必要があり、3月29日に定植に向けた説明会を開催し、J A営農指導員及び農業水産振興課普及指導員から苗到着後の管理や霜対策等について説明した。

昨年度はコロナの影響で販売促進活動がほとんどできなかったが、令和3年度はJ Aでポスター、ポップ、ミニ幟等を制作し、積極的な販売促進活動の展開を計画している。



露地栽培生産者への説明会

V 日高振興局

1. 重点プロジェクト

【新病害虫や梅干し生産への特化のリスクに強い梅産地づくり】

～「露茜」の導入推進・生産安定技術の実証～

農業水産振興課では、「露茜」の導入推進・生産安定技術実証のため、みなべ町清川に主幹形栽培実証ほを設置して栽培講習会や結実安定のための人工授粉処理を実施している。

3月11日、清川出荷会露茜部会（部会長：桑畑和也氏）の役員5名とともに、実証ほ等3園地に人工授粉処理を実施した。今年は「南高」の開花が早くから始まり、「露茜」との開花期間にズレがみられたため、3月5日に「南高」の徒長枝先端部の蕾を採集し、開葯処理した粗花粉を用いた。

参加した役員からは、「今年の「露茜」は充実した良い花が咲き、人工授粉したことできっとたくさん結実するだろう」との声が上がっていた。



「露茜」の人工授粉処理

2. 印南町4Hクラブが清流小学校で卒業式用のフラワーアレンジメントを指導

印南町4Hクラブ（会長：村上弘樹氏）の会員5名は、印南町立清流小学校からの要請を受け、卒業式の前日となる3月22日、6年生（6名）にフラワーアレンジメントの指導を行った。

昨年11月に印南町立清流中学校で職業学習の一環として指導したフラワーアレンジメントが好評で、その評判を聞いた清流小学校から、「卒業式用のフラワーアレンジメントを指導してほしい」との依頼があり、実施に至った。花材には、スプレーカーネーションやスターチス、カスミソウなど、会員が栽培した色とりどりの花を用いた。

まず、会員がフラワーアレンジメントの基本を説明した後、児童らは思い思いの花を選び、友達と相談しながら和気あいあいとアレンジメントを楽しんだ。会員らは巡回しながらアドバイスを行った。仕上がったアレンジメントは、花の選択やボリューム等、個性豊かな作品

が並び、それぞれ満足のいく仕上がりになり、児童らのうれしそうな顔が印象的であった。

卒業式当日は、これらのフラワーアレンジメントが会場を彩り、児童たちにとっても今回の体験は小学校生活のよい思い出となったことと思われる。

会員らにとっても、自ら栽培した花を用いて自分たちの活動を知ってもらえるよい機会となった。



フラワーアレンジメントに挑戦中



仕上がったフラワーアレンジメントを
並べて記念撮影

3. 日高地方生活研究グループ連協が「日高の味を楽しむレシピ」を発行

日高地方生活研究グループ連絡協議会（会長：後藤明子氏）は、日高地方の特産物を使った料理や郷土料理を消費者に知ってもらい、家庭で作ってほしいとの思いから、「日高の味交換会」や小学校の出前授業で紹介したレシピの中から12品を厳選し、リーフレット「日高の味を楽しむレシピ」として、1,000部を発行した。

リーフレットは、管内農水産物直売所において、消費者に配布するとともに、学校給食に活用してもらうため給食関係者にも配布した。

今後も農業水産振興課として当協議会の活動を支援していく。



作成された「レシピ」

VI 西牟婁振興局

1. 重点プロジェクト【気象条件等に対応した果樹産地の振興】

～ウメ「橙高」栽培実証園の施肥管理を行いました～

農業水産振興課では、ウメの梅干し以外への加工用途拡大を図るため、5年前から自家和合性を有し、機能性成分（β-カロテン）が豊富な「橙高」の導入推進に取り組んでいる。

3月16日に田辺市上芳養の「橙高」栽培実証園において、肥料と堆肥の施用を行い、園主、JA紀南営農指導員、うめ研究所及び当課職員の計8名が参加した。始めに前田普及指導員から管理作業の手順（畝周辺の除草→防草シートを剥がす→堆肥の施用→施肥→防草シートの敷設）を説明し、手分けして効率良く作業を終えた。

今年で7年生樹となり、順調に樹容積が増加するとともに、収量も増えてきている。これまでは肥効調節型肥料を年1回施用してきたが、今後は樹の生育や収穫量に応じて分施することも検討する。

当課では「橙高」栽培実証園で得られた調査結果や品種特性を広く生産者に周知するとともに、ウメの新たな需要拡大に向けた加工品開発への支援を関係機関と連携して行う。



堆肥と肥料の施用

2. 重点プロジェクト【気象条件等に対応した果樹産地の振興】

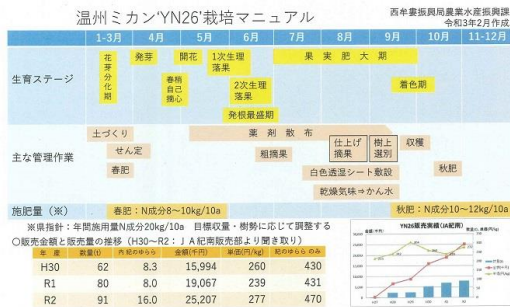
～ミカン「YN26」のせん定研修会を行いました～

減酸が早く食味の良い極早生ミカン「YN26」の高品質栽培を推進するため、3月11日にせん定研修会を実施し、若手生産者4名が参加した。上富田町岡の栽培実証園において、前田普及指導員からせん定の手順とポイントについて、実際に実演しながら説明した。その後、参加者が相互に切る枝、残す枝を確認しながらせん定を行った。

「YN26」の出荷量は年々増えており、令和2年産のJA紀南での販売量は91tであった。しかしながら、「YN26」は早期に導入した樹で8年生程度と樹齢が若く、品種本来の品質を発現するにはこれからの栽培管理によるところが大きい品種である。このため、高単価で取引されるブランド果実「紀のゆらら」の出荷割合を増やすため、施肥や堆肥の施用、着果量

の確保と摘果、白色透湿シート敷設、適期かん水やせん定など基本管理を徹底していく必要がある。

農業水産振興課では、これまでに実証園で培った栽培管理技術を、「温州ミカン‘YN26’栽培マニュアル」にまとめ、平成30年3月に西牟婁農業プロジェクト協議会で作成した「極早生温州‘YN26’品種特性と導入に向けてのポイント」と併せて、栽培面積の拡大と高品質果実生産の推進に活用していく。



栽培管理のポイント(‘YN26’栽培実証園での実例)

① せん定・せん定
 理想的な樹形は主枝を立ち気味に、亜主枝は水平にし、果実の重みで枝が下がるように仕立てる。
 樹勢が旺盛なため、軽めの間引きせん定主体で着果量を確保する。
 樹形を乱す上向き強い節(果梗枝)を整理・せん定する。結果は低品質、日焼け果になりやすい。

② 摘果・摘果
 豊果過多の際は早期に摘果果を行い、初期の果実肥大を促す。目安は7月1日に30mm未満の小玉果、フトコロに着果した色の濃い果実、スレ傷果など。
 スジ腐り果は夏秋期の遊離酸や急激な水分の流入によって摘果しやすいので、早めに摘果する。
 かぶり枝のせん定は、着果率を高めるため開花前〜幼果期に行う。
 軸太の次玉果や外りの日焼け果は、樹上選別で収穫前に切り落とす(早くちぎると秋芽が発生し、品質低下を招く)。

③ 白色透湿シートの敷設
 敷設するタイミングは、梅雨明け直後。土壌条件により異なるが、水はけの悪い圃地は表面を一度乾かしてから敷設する。
 列間敷設の場合は、巻き上げマルチの方が雨水を入れた時に閉鎖作業を容易に行える。
 ※事前にかん水チューブを設置している圃地では、マルチの間隔は不要。

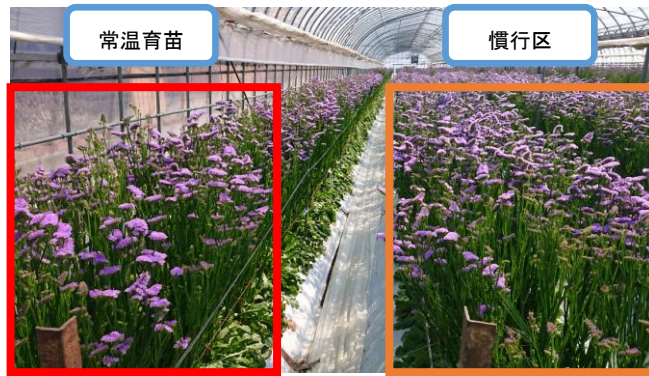
④ かん水(土壌水分管理)
 梅雨明け後、8月中旬頃までは強めの乾燥ストレス(日中、葉が巻いていても夜間には元通りの状態)をかけて根系の向上を促す。
 土壌が乾燥してきたら10~20mm程度のかん水を適量行う。
 ※翌下旬以降に降雨が少ない場合は、減酸を促すために10~20mm程度のかん水を行う。

「YN26」栽培マニュアル

3. スターチス栽培における種苗費低減技術の現地実証試験結果

農業水産振興課では、スターチス生産の課題である種苗費を低減する技術として、従来の自家育苗が必要であったクーラー育苗施設を必要としない、常温下で自家育苗した苗を利用した現地実証ほを田辺市内に2園地設置して調査を行っている。今回は、春分の日までの切り花本数や生育状況について、生産者から聞き取りを行った。

S園の切り花本数は、昨年末までは常温育苗区の方が慣行苗区よりも1本程度少なかったが、1月には慣行苗区に追いつき、総切り花本数は同等であった。一方、T園では、常温育苗区で3月までの切り花本数が2本少なかった。切り花品質は、2園地とも両区で差は見られなかった。実証試験に協力した生産者からは「常温育苗苗は葉が薄く、定植直後に葉がやけたため初期生育が遅れたが、猛暑の中で育苗しても脱春化せず、切り花本数も慣行苗と変わらないことが確認できた」、「育苗期間が短縮できる固化培地を使ってみたい」という意見や感想が上がった。このような意見を踏まえて、次年度は固化培地の利用や施肥、遮光程度を検討し、地域に適した育苗方法の確立に向けて取り組んでいく。



実証ほの生育状況

注) 2021年3月10日撮影、品種は‘紀州ファインライラック’

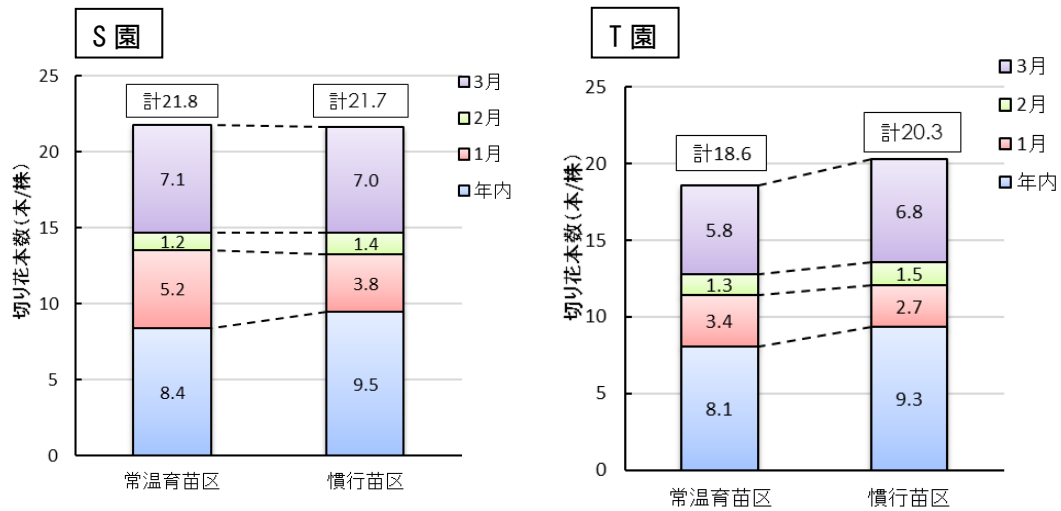


図 実証ほの月別切り花本数

S園：10月30日～3月11日まで、T園：10月28日～3月18日までの切り花本数

Ⅶ 東牟婁振興局

1. 重点プロジェクト【新規就農者の育成を核としたイチゴの産地育成】

～イチゴハダニ類の天敵防除実証圃調査結果～

3月19日に、イチゴの天敵（チリカブリダニ）を利用したハダニ類の防除実証圃の最終調査を行った。

イチゴの主要害虫であるハダニ類は化学農薬抵抗性の発達が問題となっており、化学農薬とそれ以外の方法を併用した防除方法の導入が必要で、今回、天敵を利用した防除実証を行った。

実証圃の調査結果は、前半は殺ダニ剤の効果が低かったことと天敵があまり繁殖していなかったことでハダニ類の密度は高かったが、後半は天敵が増え、ハダニ類の密度が減少した。

園主からは、「今年は、ハダニがかなり増えたが、後々天敵も増えたのでハダニが減り、葉がきれいになった。来年度も天敵を利用してハダニの発生を抑えたい」との意見であった。

今後は、この結果をもとに現地研修会などを通じて地域に普及を図っていく。また、天敵の散布回数を通常の2回から1回に減らせるかを検討していく。



ハダニ及び天敵の調査

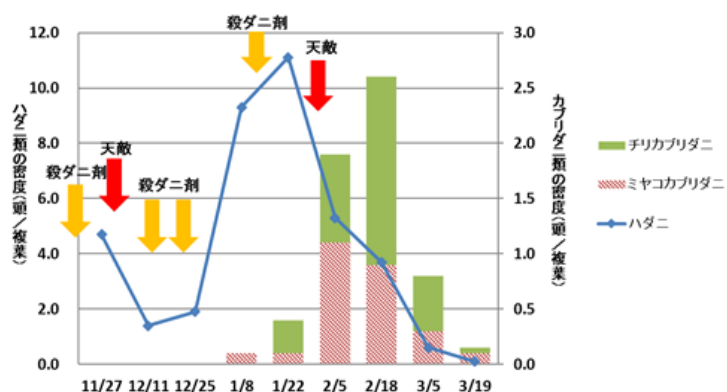


図 ハダニ数及び天敵の密度の推移

Ⅷ 経営支援課（農業革新支援センター）

1. 普及指導計画実績発表会を開催

3月24日、県民文化会館（和歌山市）で県農業改良普及連絡協議会会員出席のもと、普及指導計画実績発表会を開催した。本協議会は、普及指導活動が地域ニーズを反映し、より活動の成果が上がることを目的に設置されたもので、今回は会員（構成員：先進的農業者、学識経験者J A、市町村、マスコミ、民間企業関係者等）から普及指導計画に基づく活動への意見や評価を受けた。

和歌山大学食農総合研究教育センター岸上光克教授が座長進行のもと、各振興局及び経営支援課で取り組んでいる普及指導計画重点プロジェクト9課題について担当者から報告を行った。当課からは日高、西牟婁振興局等関係機関と合同で取り組んでいるウメとミカンのスマート農業技術の開発・実証プロジェクトについて発表した。会員から優良農地を次世代に引き継ぐための仕組みづくりや新規就農者のサポート体制強化の他、本県果樹産地に対応したスマート農業の推進について要望や提言を受けた。

最後に、岸上座長から「今年度はコロナ禍で計画どおりに活動できなかったものもあるが、一定の成果は得られたと思う。今後、担い手が減少する中、産地を維持、発展させていくためにはこれまで以上に、J A、大学、研究機関等関係機関との連携を密にし、複合的、総合的に地域の課題に取り組んでいただきたい」と講評があった。



担当者から重点プロジェクト活動報告

普及活動現地情報 発行・編集

和歌山県農林水産部経営支援課	TEL073-441-2931	FAX073-424-0470
海草振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL073-441-3377	FAX073-441-3476
那賀振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL0736-61-0025	FAX0736-61-1514
伊都振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL0736-33-4930	FAX0736-33-4931
有田振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL0737-64-1273	FAX0736-64-1217
日高振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL0738-24-2930	FAX0738-24-2901
西牟婁振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL0739-26-7941	FAX0739-26-7945
東牟婁振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL0735-21-9632	FAX0735-21-9642
和歌山県農林大学校	TEL0736-22-2203	FAX0736-22-7402
和歌山県農林大学校就農支援センター	TEL0738-23-3488	FAX0738-23-3489